

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

多聞

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

母体の病院は、瀬戸町中心街で古くから医療機関として町民の健康維持の為に貢献してきた。高齢化時代になって、高齢者が地域で安心して暮らすには、医療だけではニーズに応えられない。医療-福祉-介護が一体となり、自宅を中心に色々なサービスを受けながら住み慣れた地域で何時までも暮らしていける様にする為、療養型入院施設、特別養護老人ホーム等、福祉面へ拡大していく過程で平成15年12月にこのグループホームが設立された。設立されて1年余り経過した時、外部評価で訪問して判った事は「利用者がしたい事を何時でも出来るよう、又、利用者同士が楽しく助け合って生活出来るように、必要な事だけを支援する」という基本方針だった。そしてホームの現場で、まさにこのように言っている事ずばりの利用者の生活を見た。職員が何かを計画し、利用者と一緒にずっと活動していないと、放置に繋がってしまうと言う心配から、ホーム側の計画で生活が進められていた通例を覆し、見事に自由と楽しみのある生活を実現していたのである。そして利用者同士が助け合っている姿もあった。

その後更に1年経って2回目の訪問をした時に、現在の理念「人間(人)が人間(人)として最後まで人間(人)らしく」と成文化されたものに私共は気付いた。これは最初に見たホームの姿と何ら変わらない精神であり、その気持ちは設立当初から発案され、ケアの実践に生かされて、現在に至っている。認知症ケアの基本の考えは一貫している。

古い個人経営の病院(医療法人)であるが、特養等とも区分して、グループホームというサービス事業の倫理をよく理解し、独自の運営をして来た事に敬意を表すると共に、認知症ケアの最先端の考えを、方針として当初から導入し、職員がその主旨を理解して、利用者を支えて来た事は素晴らしい事であると思う。

長年やっていると利用者の状態も悪化してくるだろうし、職員の異動もあり、当初からの運営基盤が守られるか如何かが大きな課題である。最近はその傾向も表れている様であるが、是非このホームでの生活を守ってあげて欲しい。もう一つはこれからの利用者の症状の悪化に対して如何するか、認知症と言われた人間の正体はどんなものなのかという事も良く考えて貰い、利用者への対応を如何したら良いか、又、若年性アルツハイマー病の利用者が増加していく傾向に対してどのようなケアをすれば良いのか等、今後の課題として、もうそろそろ考えておく必要があるかとと思う。

特に改善の余地があると思われる点

このホームの理念と特長は明確であり、これからの認知症ケアの最先端をいくホームだと思っている。まずは地域の人々に、このホームの内容や認知症理解の啓発等の働き掛けを積極的に進めて貰いたいと考える。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：認知症になっても、人間としての人格を認め、人間の尊厳を最期まで守ろうとする精神を理念に掲げ、生活面にどう具体的に生かしていくかを毎年計画と目標にして、ケアやサービスの実践をしている。この理念は、現在の最も新しい認知症のケアの有り方でもある。ホームの特長を地域の中で知って貰いたいと努力しようとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：「人間(人)が人間(人)として最後まで人間(人)らしく」を当初から理念に掲げてきた。利用者が「感動」を持ち、「満足」の生活が送れ、「安全」に一生を送れるサービスの提供を目指している。この理念や方針は、設立から4年あまり経過しても、新しい認知症ケアの見本となるもので、グループホームの利用者の生活から見ても、「自分らしく生きる機能」を実践している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：現在の建物は敷地一杯に建ててあり、外回り空間の活用に対して懸念もあるが、生活空間とはハード面のみで形成されるのではなく、利用者や職員が営む生活の仕方によって満足かどうかで評価出来るものだと思う。利用者の心の拡がりや生活の場を充足していると思う。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者は自分のしたい事を持っており、食事やおやつ、そして体操と全員で行う時以外は自分の居室で過ごして居る事が多い。又、仲の良い友達グループを作り、コミュニケーションをしながら楽しい生活を送っている場面も見受けられる。このような生活をみると、自分達の生活する場が広いのか、明るいのか、家具がいっぱいあるかだけで評価するのではなく、今ある空間をどう有効に利用して、自分の心を豊かにしているのかの方が重要である。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：介護計画と記録が利用者の生活に密着しているという実感で見ている。このシステムは大変良いと思うが、そこに記述や計画された内容については、未だ改良していかねばならない。</p> <p>2、全体的に見て…：認知症になっても、人間としての価値は生きていく限り存在する。ホームに入所して、人間味がなくなった人がホームのケアによって表情豊かになった、食べる事が出来た、トイレで排泄出来るようになった、歩けるようになった、人と話が出来ようになった等の人間回復の事例はたくさんある。このような事も、このホームのケアの特長である。認知症の方が病院で、行動を抑制する目的の薬を投与され、あるいは施設や家庭で廃用化され、不安と不満によって精神的に落ち込み、人間性を失ってしまった姿が認知症の状態だと見放されている例が多い。認知症になっても人間であるというこのホームの理念によって人間回復の実現である。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームが地域にどれだけ溶け込んでいるのか、地域の方がホームに何時も出入りしているような環境を作っているかという点、未だホームの方から努力していく必要もある。運営推進会議の開催をきっかけにして、地域との交流を深めていく必要がある。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者や職員がホームのリビングルームや居室で、あるいは散歩や買物に行った場所で、又、車でドライブをして外食をする場所等で、楽しく生活している場面を形成出来るかどうかは、そのような場面に見えない場所で職員が準備の仕事をし、打ち合わせをし、外部との折衝をする、規則を作る等の仕事をきちんとする事が必要だ。又、介護職としての資質を研ぐ事も必要である。このホームでは、色々な仕事の分担を決めているし、研修にもよく参加して、利用者の生活を支えていける実力を養っている事がよく判る。</p>		